

2023年 世界の主な自然災害

海外消防情報センター



トルコ・シリア地震／トルコ・カフラマンマラシュ市街 (写真：AFP／アフロ)

本資料は、2023年の1年間に世界各地で発生した主要・特徴的な自然災害について、国連機関（UNDRR、OCHA）や通信社等の報道内容をもとに、おおむね災害の態様ごとに整理したものである。インデックス的な参考資料としてご活用いただければ幸いである。

（注）各災害の被害状況については、途中経過的なものも多く含まれており、最終確定結果ではないことに留意願いたい。

1 地震災害

《トルコ・シリア》

2023年2月6日午前4時17分頃（現地時間、以下同じ）、トルコ南東部のシリア国境近くガズィアンテプ県ヌルダウ（首都アンカラから南東約600km）を震源とするM7.8の大地震が発生。その9時間後の午後1時24分頃に、最初の震源地から北北東95kmの場所で再びM7.7の大地震が発生し、両国に甚大な被害をもたらした。M7.8の大地震は、1939年のエルジンジャン地震以来のトルコ最大の地震であり、1668年の北アナトリア地震（M8）に次いでトルコの歴史上2番目に強い地震だったといわれる。

トルコで死者53,000人以上、負傷者10万人以上、シリアで死者7,000人以上、負傷者14,000人以上となり、両国で2,000万人を超える被災者が

出るなど甚大な被害となった。日本は、この大地震の発生直後から国際緊急援助隊（救助チーム、医療チーム、専門家チーム）を派遣している。

《アフガニスタン・パキスタン》

3月21日午後9時47分頃、パキスタンとの国境に近いアフガニスタン北東部の山岳地帯ジュルム渓谷付近を震源とするM6.5の地震が発生し、両国で少なくとも死者は13人、負傷者は200人以上となった。

《モロッコ》

9月8日午後11時11分頃、モロッコ中部のマラケシュから南西に73kmのアトラス山脈の山岳地帯を震源とするM6.8の地震が発生。震源地の山岳地帯の集落や世界遺産を抱える人口100万人の国際的なビジネス・観光都市マラケシュを中心に甚大な被害をもたらした。政府当局からは、少な

くとも死者は2,960人、負傷者は5,674人と報告されている。この地震では、少なくとも 4万棟の家屋と 2,930 の村が被害を受け、2万棟近くの家屋が倒壊した。耐震性の脆弱な土壁・レンガ造の家屋が多数倒壊するなどにより甚大な被害となったが、1900年以降では、1960年の大西洋岸アガディール (M5.9)、2004年の地中海沿岸アル・ホセイマ (M6.3) を上回る同国の過去最大級の地震となった。

《アフガニスタン》

10月7日午前11時10分頃、西部ヘラート州ヘラート市北東近郊を震源とするM6.3の地震が発生、23分後に再びM6.3の地震が発生した。さらに10月11日、15日と立て続けに同じ地域でM6.3の地震に襲われた。これらの一連の地震で、震源地付近やヘラート州内の400近くの村で壊滅的な被害となり、少なくとも死者は1,400人以上、負傷者は約2,000人となった。死傷者の大多数は、10月7日の地震による家屋の倒壊によるもので、昼前の時間帯から多くは女性と子供が犠牲になったとみられている。

《ネパール》

11月3日午後11時47分頃、首都カトマンズから北西約300kmのジャージアルコート周辺地域でM5.6 (ネパール当局はM6.4 (推定) と公表) の地震が発生し、少なくとも死者は157人、負傷者は360人以上となり、26,000棟以上の家屋が倒壊した。ネパールでは、2015年にM7.8のゴルカ地震 (余震M7.3) により9,000人以上が犠牲となって以来の大地震被害である。

《フィリピン》

11月17日午後4時14分頃、ミンダナオ島のダバオ州サランガニ市から南西に28kmの付近を震源とするM6.8 の地震が発生し、死者は11人、負傷者は730人となった。

《中国》

12月18日午後12時頃、北西部甘粛省積石山自治県を震源とするM6.2の地震が発生し、少なくとも死者は149人、負傷者は900人以上となり、家屋は20万棟以上が損壊した。

2 大雨・豪雨災害等

《フィリピン》

2023年1月の年初から、各地で発生した豪雨・洪水・地すべり等により、少なくとも死者は30人となったほか、160万人を超える被災者が発生した。なお、前年12月にも年末にかけて南部や東部を中心に断続的に大雨が降り、各地で洪水等が発生し多くの死者、行方不明者が出た。

《米国》

1月の数週間で、カリフォルニア州では豪雨・暴風雨・洪水等により少なくとも死者は19人となった。

《ペルー》

2月6日、南部アレキパの集落で大雨による土砂崩れが発生し、少なくとも死者は36人となった。

《ブラジル》

2月20日、サンセバスチャンやウバトゥバなどのサンパウロ州北部海岸を襲った豪雨では、死者60人を超える被害となった。

《インドネシア》

3月6日、南シナ海の端にあるナトゥナ諸島セラサン島で発生した豪雨・地すべりにより、少なくとも死者は32人のほか、20人を超える行方不明者が出た。

《コンゴ》

4月2日に発生した東部の北キブ州での土砂崩れにより、少なくとも死者は20人となった。また、5月4日には、南キブ州のカレヘ地域で洪水と地滑りが発生し、400 人以上の死者となったが、これは、同国における近年最悪の自然災害の一つである。同国はコンゴ川流域に位置し、気候変動により洪水災害が頻繁に発生している。

《ルワンダ》

5月2日から3日にかけて、西部と北部の州で発生した洪水と地すべりにより、少なくとも死者は130人となったほか、多数の負傷者が発生した。

《イタリア》

5月2日から3日及び、16日から17日頃にかけて、エミリアロマーニャ州で発生した記録的な豪雨・洪水により、ボローニャ、チェゼーナ、フォルリ、ファエンツァ、ラヴェンナ、リミニとその周辺地域で洪水等の深刻な被害が発生し、少なくとも死者は 17 人となり、おおよそ5万人が避難

を余儀なくされた。

《ハイチ》

6月3日から5日にかけて、豪雨により各地で激しい洪水が発生し、少なくとも死者は42人となり、11人が行方不明となった。死者のうち19人がウエスト（西部）県レオガンで亡くなっている。

《中国》

6月4日、四川省では6月初めからの豪雨により、樂山市山間部の国有林場で大規模な土砂崩れが発生し、採掘業者の宿舎などを飲み込み出稼ぎ労働者19人が死亡した。雲南省でも、洪水により死者3人のほか行方不明者が出た。

《パキスタン》

6月11日、北西部のカイバル・パクタンクワ州での10日からの豪雨により、同州南部のバンヌー、ラッキ・マルワット、カラック等で深刻な被害が発生し、20人以上の死者と百数十人の負傷者が発生した。

《インド》

7月6日からの豪雨、洪水、地すべり等による災害がインド各地（特に北部州）で発生し、北部各州では125人以上の死者となった。

8月13日、ヒマラヤ地方での数日間にわたる豪雨により、洪水と地すべりが発生し、少なくとも死者は50人以上となったほか、数十人の行方不明者が発生した。

また、10月4日には、豪雨により北東部にあるヒマラヤの氷河湖で水があふれ、洪水が発生した。この洪水で少なくとも40人が死亡、数十人が行方不明となった。

《韓国》

7月9日からの集中豪雨により各地で洪水と地すべりが発生し、少なくとも死者は37人となったほか、9人の行方不明者が出た。

《中国》

8月初めの数日間、北京では140年前に記録が始まって以来の記録的豪雨が発生するなど、北京及び隣接する河北省に大きな被害をもたらし、死者が北京及び河北省で20人となったほか、百数十万人の避難者が発生した。

《ジョージア》

8月3日、首都トビリシの北西140kmのリゾー

ト地ジョビで大雨により氷河が溶け地すべりが発生し、少なくとも死者は16人となった。

《東アフリカ》

11月から12月前半の数週間の大雨と洪水により、ケニア、ソマリア、エチオピア、タンザニアで合わせて、少なくとも350人以上が死亡、避難者は100万人以上となった。

- ・ケニアでは、少なくとも死者は136人となり、避難者は50万人近くに上った。
- ・タンザニアでは、北部で洪水や土砂災害が相次いで発生し、少なくとも死者は63人となった。

3 台風・ハリケーン・サイクロン等

《ニュージーランド》

2月12日から14日にかけて、大型サイクロン「ガブリエル」により北島の東部地域を中心に甚大な被害が発生し、少なくとも死者は11人となった。

《マラウイ》

2月にオーストラリアで発生したサイクロン「フレディ」は、2月下旬に一度アフリカ南部に上陸してインド洋に去ったが、3月に入り勢いを増してマラウイに上陸して甚大な被害をもたらした。「フレディ」の上陸でマラウイ南部ではわずか6日間で6か月分の雨量を記録、その影響で土砂崩れや洪水が発生し50万人以上に影響を与えた。この災害では1,000人を超える死者となり、過去20年間でアフリカ大陸を直撃した最悪のサイクロンの一つといわれる。

《米国》

3月24日夜から、強力な嵐とともに竜巻が米国南部を襲い、ミシシッピ州で死者25人を出したほか、建物被害、広範囲の停電など深刻な被害となった。また3月31日に発生した暴風雨は、南部から中西部にかけて猛烈な嵐と竜巻となって襲来し、少なくとも死者は32人となったほか、多くの州で甚大な被害が発生した。アーカンソー、イリノイ、アイオワ、ウィスコンシン、ミシシッピ、テネシー等少なくとも7つの州で50以上の竜巻が報告された。

《ミャンマー・バングラデシュ》

5月11日に発生したサイクロン「モカ」は14日に至り70m/s近い最大風速を伴ってミャンマー・

ラカイン州からバングラデシュ・コックスバザール県にかけての沿岸部を襲い、ミャンマーを中心に、400人以上の死者と多数の行方不明者、数百万人ともいわれる被災者が発生した。

《フィリピン・中国等》

7月26日から29日頃にかけて、記録的な大型台風「トクスリ」が、26日にフィリピン・カガヤン州フガ島及びダラプリ島に上陸し、豪雨による洪水、地すべり等の被害をもたらしながら移動し、その後中国福建省等の各地で豪雨・洪水等による甚大な被害となった。正確な死者数は集計されていないが、フィリピンでは、同国最大の湖であるバエ湖での船舶転覆による死者27人を含めおよそ50人の死者、中国では福建省を中心におおよそ80人の死者となったものとみられる。

《リビア》

9月10日以降、地中海で発生したサイクロン「ストーム・ダニエル」が地中海沿岸諸国を襲い、中でも内戦の続くリビアでは、北東部のデルナ、ベンガジなどの都市が豪雨と大洪水に見舞われた。「ストーム・ダニエル」は有史以来最も被害の大きかった地中海サイクロンともいわれ、北大西洋地域以外で記録上最も被害の大きかった熱帯性低気

圧の一つともいわれている。内戦状態のため正確な被害の把握は困難で、世界保健機関（WHO）の途中経過では、死者は4,000人以上、行方不明者は9,000人以上と公式発表されたが、行方不明者は最大数万人ともいわれている。この大災害では、人道支援を必要とする人々が数十万人に達した。未曾有の大災害となった原因として、内戦による人災が指摘され、デルナの2つの老朽化したダムの大決壊により河川が氾濫し、市街地を飲み込んだことで被害が拡大したとも指摘されている。

《インド》

12月4日から5日にかけて、インド南部に上陸したサイクロン「ミチャウン」はタミル・ナドゥ州の州都チェンナイと周辺地域に暴風豪雨と洪水をもたらし、少なくとも死者は20人となった。

4 火山噴火

《インドネシア》

12月3日午後2時54分頃、西スマトラのマラピ山（標高2,891メートル）が大規模噴火し、頂上火口から3,000メートルに達する火山灰を含んだ火柱が噴出した。この噴火で23人の登山者が犠牲になった。



リビア洪水／デルナ市街（写真：AP／アフロ）